

## エコ. エコ (ecology. economy)

特定非営利活動法人 エコ. エコ

## 記憶の風景（１） 見沼代用水西縁

見沼の西縁、大間木で生まれ育った原田昌三さん、昌江さんご夫妻に昔を思い出して頂きお話を伺いました。一言ひとことが、過ぎていった80年余りの、その時々風景を見せてくれました。

芝川で泳いだ…昭和6年生まれ原田昌三さんが子供のころの見沼で真っ先に思い出すのは、綺麗な芝川や代用水です。水は澄んでいて、芝川で泳いだときは足に藻が絡まり慌てたこともありました。冬は今より寒かったから田んぼ一面に氷が張り、見渡す限り輝いてとても綺麗でした。

勉強時間は1時間…太平洋戦争が始まると国民学校高等科の生徒も勤労奉仕に行きました。学校に通って勉強するという当たり前のことが私にはできない時代でした。家から30分歩いて原山まで「ホタル懐中電灯」を作る作業に行きました。陸軍兵士の必携品のひとつで手動発電だったのでホタルと呼ばれていたようです。一日、勉強時間は1時間だけでした。

米作り…戦後ようやく落ち着いて米作りができるようになりましたが、その頃は直接田んぼに種もみをまく、摘み田（つみた）という方法で作っていました。泥が深い田んぼに合っていたのです。耕すのは万能鍬で、ひと鍬ごとに前の年のイネの株を二つ一緒に掘り起こしながら進め、次はうなっていくます。うなう作業は男達が競争で行っていました。土くれを細かくならずわけです。それが終わるとやっと代掻き（しろかき）です。肥料はわら灰などの灰でした。溝をつけてそこに種もみをまいて行きます。摘み田（つみた）の欠点は、雑草が多いことで、共同作業で草抜きをしました。田植えを行うようになり、共同作業は少なくなりました。

減反…苦勞して手をかけた稲が育ち、いよいよ実りを迎えると、わくわくしたものです。しかし、昭和45年頃から減反政策が始まり、「この辺ではもう米を作らなくてもよい」と言われとても不安になり、米を3年分備蓄しました。最後の田んぼで水を落とした時の水音が、今でも胸の中に残っていて、思い出すととてもさみしくなります。自分の食べるものは自分で作るという昔から当たり前だったことが、このとき大きく変わったのだと思いました。今では、米を買って食べることになれましたが、秋の夕日を浴び黄金色に輝く稲穂の美しさを忘れることは出来ません。

花室は発酵熱で…明治38年生まれ父は、桃や梅の花を出荷する時の束ね方を習いに川口まで行きました。花の出荷は原田家の収入源のひとつになりました。自転車で花枝の仕入れに、見沼地域だけでなく秩父まで足を延ばしていました。切り取った枝は川につけておきます。もちろん泊りがけで12~13日滞在しました。

堅いつぼみを膨らませるには、花室が必要です。出入り口は1メートル幅で階段をつけながら3メートルの深さまで掘ります。室の広さは6畳くらいですが二つに区切り奥を発酵室にします。麦ぬか、ワラ、米ぬかを混ぜて水をかけると発酵します。寒い時期でも14~15℃の室温になりますから、つぼみが膨らみ始めたところで出荷です。今は梅も桃も温室で咲かせますが、花室で咲かせた桃の花の色は濃くて綺麗でした。

一束約23kgを三束、合計7~80kgくらいを自転車に載せ、赤羽通りの坂本屋、上野の谷中まで運びました。重くて、荒川の橋を登るときに荷台がひっくりかえったこともありました。やがてバイクやトラックに変わりましたが、渋滞などで結局、到着時間は同じでした。不思議なものです。

とうかんやのぼたもち…四季折々の年中行事はそれぞれ楽しい思い出があります。七夕が近付けばマコモの七夕馬を売りに来たり、九月の十五夜、十月の十三夜も自然の恵みに感謝するわけだし、十月のとうかんやも良い思い出です。十月十日の晩でとうかんや、です。芋がらを芯に入れた稲わらの束を荒縄でしっかり縛り、この束で地面をたたくの。芋がらが入るといい音がしました。この音で大根も抜け出すなんて言っていました。収穫したもち米と小豆で作るぼたもちがその晩のご馳走です。

“とうかんやのぼたもち なまでもいいから 釜ごと持ってこい”なんて言いながら、懐かしい思い出です。



ホタル懐中電灯

<http://blog.goo.ne.jp/bntanmie/e04ff591c6902b7a6233a0426534d>



※学徒勤労奉仕に関連して浦和市史には、太平洋戦争末期の学徒勤労員になってからの記載ですが、武州電機株式会社勤労状況として、尾間木国民学校の学童「特ニ明朗快活ニシテ勤勞ヲ樂シミツツアリ」とあります。

※昔の暮らしの基本である、自分の作ったものを自分で食べるという日本の農業者のふんばりどころを大きく変えたのは減反政策なのだと感じました。

※浦和市史に、花室に火を炊いて室内を暖めるという記述はありましたが、発酵熱を使ったという記録は見当たりませんでした。

※「とうかんや」は日本型のハロウィンとして復活させたら楽しい行事になるのではないのでしょうか。

聞き書き—加倉井範子（2015年8月）

## 今後の予定 NPO法人 エコ.エコ

### 観察会

- 9月20日（日）クモの観察
- 10月25日（日）自然の宝物探し
- 11月15日（日）秋の楽しみ
- 12月20日（日）水鳥
- 1月17日（日）ブーメラン
- 2月21日（日）土の生き物
- 3月20日（日）野遊び

講師都合、天候により変更有り

### 里山.com

里山体験します。  
畑・湿地の手入れ  
クラフト体験  
収穫物配布あり  
○一般1家族 800円  
○会員1家族 500円  
**クス抜き、アシ刈り**  
**イベント**を計画中  
野外体験後野外で楽しむ  
おやつ体験  
体験料 100円予定  
日程はホームページで

### マルコ保全

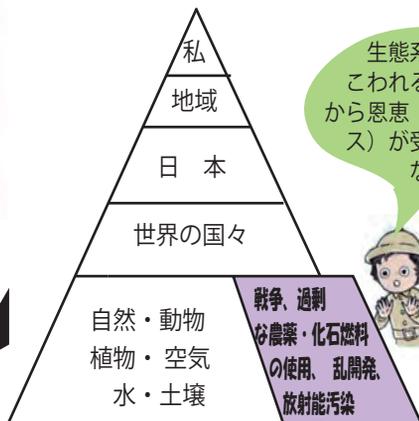
第2木曜日  
第3金曜日  
集合場所 トラスト1号地  
東屋  
時間 9時開始  
初めて参加されるか方はボランティア保険に加入していただきます。（年間450円）  
必ず事前申し込みしてください

## 生態系を理解する人が増えると

快適な **未来** がやってくる



生態系サービス  
\*暮らしを支える  
さまざまな自然の恩恵



### 寄付で未来を変えよう!!

NPO法人エコ.エコはさいたまマッピングファンドの登録団体になりました。税制上の優遇措置があります。

問い合わせ先

さいたま市市民協働推進課

Tel: 048-813-6403



## 自然観察会・里山体験・貴重種の保護活動を通して 自然の仕組みを理解する人の輪を広げています。

活動を御支援ください NPO法人 エコ.エコ

問い合わせ先 メール kaerunomaru@gmail.com

Tel&Fax 048-874-9811 (加倉井)

寄付送金先 エコ.エコ 郵便振替 0110-0-711005



<http://members3.jcom.home.ne.jp/kaerunomaru/> kaerunomaru で検索